

祭神料略 中 枋一枝已上幣料、官物

〔延喜式臨三時祭〕宮城四隅疫神祭略 中

枋一枝 畿内堺十處疫神祭略 中 枋一枝擔夫二人京職差

〔延喜式齋五宮〕造備雜物略 中

檜枋卅枝

〔西宮記四月〕擬階奏

二省候 日華門外左右立赤辛櫃、有式部輔進短冊一丞、拔枋開蓋丞、取短冊授輔、○中略 下、輔又進

篔簹奏中略 一丞取篔簹入櫃、一丞取枋橫櫃上、卿兩丞退出

〔空穂物語藏開上〕ひわりご五十、かみなんぢんすわうまたんなどなり、だいあふこなどもおなじ

ものふくろしきもの、く、りなども、いとさよらなり、

〔古今和歌集誹九〕題まらず

讀人まらず

人こふることを重荷と荷ひもてあふごなきこそわびしかりけれ

〔金葉和歌集戀八〕題まらず

讀人まらず

こりつむるなげきをいかにせよとてか君にあふごの一すぢもなき

〔平治物語一〕從六波羅紀州被立早馬事

筑後守家貞、長櫃ヲ五十合ヲモゲニ昇セタリシヲ取寄テ、五十領ノ鎧、五十腰ノ矢、其外佛具共ヲ

取出シテ奉ル、弓ハ何ニト宣ヘバ、竹枋ノ中ニ節ヲツイテ入タリケレバ、即五十張ノ弓ヲ取出セ

リ、

〔嬉遊笑覽商十一〕あふこは、おとあと通ふこと多ければ、おひ木なるべしといふれど、相木の意にて

通すべし、又荷ひたるさまはかりにかけたらむやうなれば、俗には天秤棒といへり、世にいふ婦